

# 国語科学習指導案

第2学年

## 【単元】音読げきをしよう（『お手紙』光村2年下）

| 考察                | 知識及び技能  | 思考力、判断力、表現力等  | 学びに向かう力、人間性等   |
|-------------------|---|---|--|
| <b>育成を目指す資質能力</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することについての知識及び技能 ( (1) ク )</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する能力 ( C (1) エ )</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度</li> </ul>   |
| <b>子どもの実態</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>語のまとまりに気を付けて音読をすることができる子どもが多い。</li> <li>想像したことを基に、登場人物になりきって、言葉の響きに気を付けて音読する子どもが少ない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の場面における登場人物の口調や表情、様子を具体的に想像できる子どもが多い。</li> <li>物語における場面の位置付けを考えたり、複数の場面をつなげたりして、登場人物の口調や表情、様子を総合的に判断する子どもが少ない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間や隙間時間に、進んで本を手にする子どもが多い。</li> <li>手に取る本は、興味、感心のある内容や種類に偏っており、様々な作品に触れるようとする子どもが少ない。</li> </ul>   |
| <b>価値</b>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>『お手紙』は、『ふたりはともだち』に収録されている作品であり、他の収録作品も主な登場人物はがまくんとかえるくんである。これらは全て、ふたりの会話を中心に進んでいくことから、ペアで役割読みをしたり、音読劇をしたりすることに適している。音読をするためには、叙述を基に、がまくんとかえるくんの口調や表情、様子を具体的に想像しなければならない。『お手紙』は、挿絵が各場面に挟まれていることから、本文だけでなく挿絵も読む対象とする。また、意地になるがまくんやお手紙を書いたことを告白してしまうかえるくんの行動からは、行動の理由を感じ取ることができる。行動の理由を感じながら音読しようとすることで、言葉のもつ響きやリズムを意識して音読することができる。そして、『お手紙』の世界を味わうことで、他の作品やシリーズ本に興味や関心を抱くことが期待される。</li> <li>ふたりの会話を音読として表現するためには、それぞれの行動の理由を感じ取り音読に生かす必要がある。日頃使う言葉と、ふたりの発する言葉とでは、響きやリズムが異なってくる。がまくんとかえるくんの行動を具体的に想像して音読しようとすることで、言葉の響きやリズムに気を付けて音読する知識及び技能を高めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ふたりの口調や表情、様子、さらには、それらの行動の理由を想像するためには、特定の場面の叙述だけでなく、作品全体における場面の位置付けを考えたり、それまでの場面の叙述とふたりの行動を結び付けたりする必要がある。複数の場面の様子を表す叙述に着目して、叙述とふたりの行動とを結び付けることで、口調や表情、様子を具体的にイメージする能力を高めることができる。さらにそれらの行動の理由を想像する能力も高めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>がまくんとかえるくんが登場する作品は、『お手紙』を含め、邦訳されているものが20作品ある。『お手紙』でがまくんとかえるくんの世界を十分に味わうことで、他の作品にも興味、感心が向けられるだろう。海外原書の作品を手にする機会は少ないので、新たな作品群との出会いとなることが期待される。</li> </ul> |
| <b>見方・考え</b>      | がまくんとかえるくんの世界と叙述、叙述と叙述との関係を捉えたり問い直したりすることで、叙述の言葉一つ一つへの自覚を高めること。   |   |  |
| <b>今後の学習</b>      | 「すみれちゃんやかりんちゃんになって、かんじよう（『わたしはおねえさん』光村2年下）」において、登場人物の行動を具体的に想像したことと、自分の体験を比べて、感想をもつ学習に発展していく。   |   |  |

## 指導と評価の計画

|       |  |   |   |  |
|-------|--|---|---|--|
| 目標    | 物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、音読劇に向けて登場人物の行動を具体的に想像することができる。  |   |   |  |
| 話し活動  | 物語を読み、具体的に想像したことを生かして音読劇をする活動  |   |   |  |
| 評価規準  | (①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。( (1) ク)<br>(②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。( C (1) エ)<br>(③主体的態度) 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。 |   |   |  |
| 過程    | 時間   | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」  |
| つかむ   | 1  | ○『お手紙』の範読を聞き、初読の感想を共有する。  | ○これまでの学習を想起できるよう、「みんなで取り組みたいこと」を記述の観点として提示する。   | ◇これまでの学習を想起して、取り組みたい活動について発言したり記述したりしている。<br><発言・ノート③>   |
|       | 1  | ○仲間の音読を聴いて、課題意識をもち、学習課題を設定する。<br><br>学習課題<br>がまくんとかえるくんの行動を想像して音読劇で表そう  | ○『お手紙』の音読をよりよくする課題意識をもてるよう、一人一人が音読を録音して、全体で聴く機会を設定する。   | ◇『お手紙』の音読をよりよくすることに関心をもち、学習課題について発言したり記述したりしている。<発言・振り返りシート③>  |
| ふかめる  | 6  | ○場面ごとに登場人物の行動について想像したことを聴き合ったり、音読したりする。<br>・お手紙を悲しい気持ちで待つふたり<br>・大急ぎで家に帰り、手紙を書くかえるくん<br>・お昼寝をしているがまくんとお手紙を待つよう説得するかえるくん<br>・励まし続けるかえるくと意地になるがまくん<br>・かたつむりくんを待つかえるくんとその行動が気になるがまくん(本時)<br>・お手紙を書いたことを告白したかえるくん、幸せな気持ちで待つふたり | ○登場人物の行動を具体的に想像できるよう、感じたり、思ったりしたことを書き込むことができる本文シートを用意する。  | ◇叙述を基に、登場人物の表情・口調・様子を具体的に想像して、本文シートに書き込んだり、友達に伝えたりしている。<br><本文シート・発言②>                                 |
|       | 4<br><br>1   | ○グループごとに、場面や役割を分担して音読劇を練習する。<br><br>○音読劇を聴き合い、感想を書く。  | ○想像したことを基に音読の仕方を修正できるよう、これまでの学習で用いた本文シートや振り返りカードを参照する機会を設定する。<br><br>○想像したことと音読劇を結び付けることができるよう、音読劇を通して「はっきりしたこと」「はっきりした理由」を観点として提示する。 | ◇語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。<br><音読①><br><br>◇音読劇を通して、作品の世界をより具体的に想像できたことを記述したり発言したりしている。<br><ノート・発言②> |
| ふりかえる | 1  | ○音読劇の感想を交流し、単元の学習の振り返りをする。  | ○具体的に想像することの達成感を味わえるよう単元の学習を通して蓄積してきた振り返りを読み返す機会を設定する。  | ◇友達と考えを聴き合ったり音読したりして登場人物の行動を具体的に想像することのよさを発言したり記述したりしている。<br><発言・ノート③>                                 |
|       | 1  | ○がまくんとかえるくんの別作品を読む。   | ○興味をもつきっかけとなるよう、図書室のシリーズの本をまとめて提示する。  | ◇シリーズの本を読み、感じたことを記述している。<br><ノート③>   |

## 本時の学習（7／15時間目）

ねらい がまくんとかえるくんを具体的に思い描きながら音読することを通して、叙述を基に、がまくんのしたことや表情・口調・様子を具体的に想像することができる。

評価項目 叙述を基に、登場人物の表情・口調・様子を具体的に想像して、本文シートに書き込んだり、友達に伝えたりしている。

<本文シート・発言②>

| 学習活動と子どもの意識   | 指導上の留意点  |
|---|--|
| <p><b>1 本時のめあてをつかむ。</b></p> <p>・がまくんは怒っていたと思うのだけれど、人によって怒っている度合いが違うな。自分なりにがまくんの気持ちを考えて、音読したいな。<br/>(問題意識)</p> <p>めあて：がまくんとかえるくんの気持ちや行動を考えて、6の場面を音読しよう</p>   | <p>○がまくんとかえるくんの表情・口調・様子には複数の解釈があることに気付けるよう、6の場面を音読したり、友達の音読を聴いたりして、自分と友達の音読の違いを問いかける。</p>  |
| <p><b>2 6の場面におけるふたりの行動を想像したり、音読したりする。</b></p> <p>・がまくんは怒っていて、「どうして、きみ、まどの外を見ているの。」と言ったのだと思うよ。</p> <p>・友達は、がまくんは全く怒っていないと言っているな。最後の「～の。」から不思議に思っていると考えたらしいけれど、どうしても納得いかないな。</p> <p>・5の場面では、がまくんはかえるくんにだんだんとイライラしていくのだったな。6の場面では、そこまでイライラしているようには感じられないな。どうしてだろう。</p> <p>・5の場面から6の場面にかけて、がまくんはかえるくんを見ているけれど、かえるくんは外ばかり見ているんだな。もしかすると、イライラしていただけではなくて、寂しい気持ちが合わさっているのかもしれないな。</p> <p>・がまくんは、かえるくんが外を眺めていて寂しい気持ちになっているし、少し怒っているのだと思うな。がまくんの気持ちを考えて、少し怒っているように音読したよ。<br/>(問題を解決した意識)</p> <p><b>3 本時の学習の振り返りをする。</b></p> <p>・友達が、がまくんは全く怒ってなくて、本当に不思議に思っていたと言っていたことがきっかけになって、より詳しく想像できたな。</p> | <p>○本文の叙述や挿絵を基に、がまくんとかえるくんの行動を具体的に思い描くことができるよう、線を引いたり、自分の考えを書いたりできる本文シートを用意し、自分が感じたことや思ったことを書き込むよう促す。</p> <p>○お互いの考えを聴き合い、自分の考えを広げていくことができるよう、本文シートに注目しながら感じたことや思ったことを聴き合っているペアを称賛する。</p> <p>○6の場面におけるがまくんやかえるくんを具体的に思い描けないペアが、5の場面とのつながりから想像することができるよう、5の場面と6の場面の音読をペアで聴き合うよう助言する。</p> <p>○表情・口調・様子だけでなく、がまくんとかえるくんがしたことや行動の理由も想像できるよう、6の場面におけるがまくんとかえるくんの位置や視線、がまくんとかえるくんが感じていることを問いかける。</p> <p>○がまくんとかえるくんの表情・口調・様子を具体的に想像して読むことができたことを自覚できるよう、いくつかのペアに音読するよう促し、音読の工夫を称賛する。</p> <p>○友達と考えを聴き合うことで具体的に想像できたことを実感できるよう、友達の発言で最も心に響いた言葉を問いかける。</p> |